

横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置の一環として、令和4年3月は書面開催、6月は本校にて対面での開催とした。

社会福祉法人朝日の里朝日塾、社会福祉法人伸愛会(屏風ヶ浦はるかぜ保育園)、横浜市戸塚区役所、岩崎学園東戸塚保育園、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ1名、合計6名に直接、および資料を送付し意見をいただく機会を設けた。

1. 自己評価について

- ・岩崎学園ならではの様々な分野の他校との交流、学生たちにもいろいろな刺激があつて素晴らしいと思います。このコロナ禍で、保育所や施設実習の減少により総合評価が落ちてしまっていること、残念に思います。やはり学生時代のリアルな実習と言うものは、学生にとって非常に有意義な経験だと思います。来年度は中止になることなく実施ができると良いと思います。

2. 進路実績について

- ・ほぼ、子ども達に関わる仕事に就くようで、大変喜ばしいことだと思います。働く母親たちが増えている中で、保育士の仕事は大変だと思います。学生たちが今後有意義な社会人生活を送っていかれることを願います。
- ・市内ではまだまだ保育士が不足しております。全員が保育園、児童・福祉関係の職に就いていただきたいと願っておりましたが、3人の方が少し残念に思います。
- ・近年は、保育園、幼稚園への希望が多いようです。施設でも実習生の受け入れは引き続きいたしますので、よろしく願います。

3. 教育活動について

- ・国語力の向上。将来子ども達の指導にあたる学生たちにとって大切な分野だと思います。なかなか外国語の方ばかりに目を向けてしまい、正しい母国語教育も大事だと思います。
- ・コロナ禍のなかでICTの活用方法を早期に確立したことはとても素晴らしいことです。私も参加させていただきましたが、卒業研究発表会をYutubeliveにて実施したことで、多くの学生さんが参加でき、とても良かったと思います。
- ・卒業研究発表にお邪魔させていただき、ゼミでの活動が素晴らしいことを改めて感じました。先生方の動機づけと学生の皆さんのモチベーションが研究に反映し、現場で実践していることから、先般お伝えしたとおり貴学出身の保育士の評価が非常に高いということに繋がっているのだと思います。活動のひとつである、防災かるたを拝見しました。こどもたちの覚えやすい用語を使ったとても素晴らしい内容です。私もかつて制度を利用しましたが、横浜市では職員を大学院に派遣して仕事に活かしております。最近、保育士に特化して高い専門性を身につけさせる取組が始まりました。その受講生の言葉を借りますと「保育士はタフな精神によって実践されていることを改めて実感しました。特に、笑顔で安心感を醸し出すことを必要とされる保育士は『感情労働』という特徴を持つものかもしれません。経験の積み重ねによって、徐々に自身の感情を管理することに慣れていくと考えられますが、

保育士自身の生活や健康、対人関係が不安定な場合、大変強いストレスの中におかれることとなります。」とのことです。

そういったことを自ら打破することはもちろんですが、スーパーバイザーが必要なのではと思います。貴学の様々な取り組みが将来のスーパーバイザーを育成することに繋がりますので、引き続きご尽力くださいようお願いいたします。

- ・オンライン教育にだいぶ学生も慣れてきたと思います。実現場では、オンラインには、ならない(できない)ので、今後が少し気になります。
 - ・昨年度からのオンライン授業導入、今年度はそのオンラインの質と満足度の向上を目指したとありますが、学校として、学生達を守る手段としてのオンライン導入は評価できます。(学生アンケートにおいても満足度 65%という数字は高いと思います)
 - ・昨年夏は、戸塚区内においてコロナによる休園がゼロとなった時期があったが、第6波においては休園数が減少しない状況です。厳しい状況の中、御校卒業生が活躍しているという声を現場から多く聞いています。オンライン授業の中で、どう学びを深めるのか、新しい環境下との付き合い方が鍵になっていると感じます。また、昨年と同様にゼミでの活動が活発であると感じます。今年度も学習意欲をあげて行ってほしいと願っています。
 - ・実習で来た学生が、あいさつや自分で考えて行動する様子があり、レベルの高さを感じました。視野の広い学生が育っているように思います。先生方の指導や、他学年との交流が効いていると思います。また、今年からスタートしたインターンシップゼミは、保育園のみでの実施でしょうか。可能であれば、ぜひ障害者支援施設もたくさん活用してほしいと思います。また、TAはどのように活用されているのか教えてください。
- この2年間、実習指導において、考察力を上げることに力を入れてきた。それらが反映されているのではないか。障害者施設等での実践については、昨年実施できなかった施設プレ実習が再開予定となっている。
- TAは短大連携授業で後輩のレポート指導を行っている。

4. その他

- ・全体で4.5%の退学率、特に1年次9名の退学者がいたこと大変残念です。でも早い時点で進路を切り替えることができたのかなとも思っております。
- また、地域の者として、昨今なかなか学生たちと交流することができず残念に思っております。来年度は少しでも学生の皆さんと交流ができることを楽しみにしております。
- 来年度もどうぞよろしくお願いいたします。
- ・退学率は昨年度同様残念ながら4.5%となっています。実は、10年以上前のことですが、私の知り合いのお子さんが貴学に通っており、退学したいと言い出したことがありました。その際、先生による当該学生へのフォロー、両親への声掛けなどについて、とても感謝しておりました。結局は退学しましたが、今でも話しの中にお世話になった学校として登場しております。そういった意味で私は、貴学教職員の方々が努力を重ねても防げない退学があることを理解している評議員の一人かなと思います。
- 退学者減少の一助となるのではと思うことは、記載にありますTA制度によって前向きになってもらうこともそうでしょうし、対面が難しいなかでの1年生同士の支え合いもそうです。そして、これまでどおり先生方のサポートによるモチベーションアップにご尽力くださることを期待しております。

- 保育士が足りていない現状が続いています。学校の成績優秀者＝保育の質の高さに相関が見られるわけではないと感じています。コミュニケーション能力が高いことや、臨機応変で、多角度から物事をとらえられる人が強いと感じている。また、保育者には、生活習慣がきちんとしており、自分の健康管理ができる人が望ましいです。
- オンライン学習が充実してきていることを感じます。横浜保育のTikTokのピアノの動画を見て、コメント内容から共感して安心を届けていることがすごく分かりました。SNSは動画での発信を増やすとよいと考えます。また、保育士が選ばれる時代になることが考えられるので、利用者にとってこの園でよかったと思ってもらえる保育士の育成が望まれます。
- 退学という選択をせず、学び続ける学生が一人でも増えるようお願いします。子どもの人数は減ってきましたが、現場は保育者の人数が引き続き足りない状況です。保育現場も、離職防止策や、やりがいを持続してもらうための方法を日々考えている状況です。養成校においても保育分野の魅力の発信も強化してほしいです。

以上